

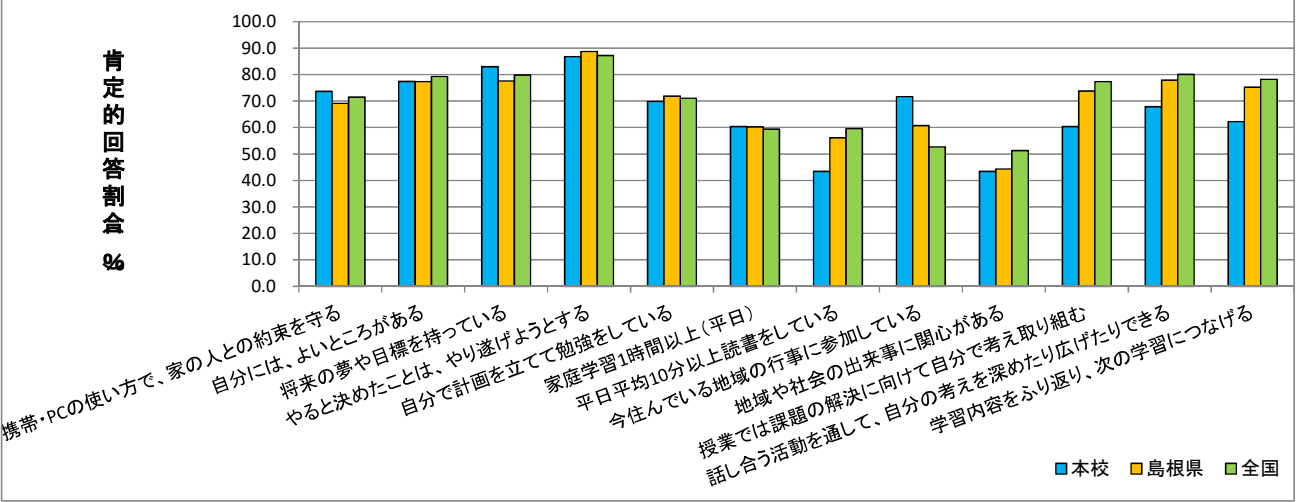
(1)学力調査結果から見られた傾向

	成果と課題(○: 成果, ●: 課題)	対 策(・)
国語	○言葉には相手とのつながりをつくる働きがあることを理解している。 ○自分が聞きたいことや相手が伝えたいことの内容を捉える問題はできている。 ●文章から読み取ったことを指定された文字数以内にまとめることが難しい。(言えないから書けない、条件に沿うことができない) ●話す・聞くが弱い ⇒ 問題が難しい = 読解力	・問題の趣旨を先に捉えてから文章を読むようにさせる。 ・書くパターン(まとめ方)の指導を大切にする。 (教科書に書いてある文の組立方や文の型) ・読解力の向上⇒伝えたいこと、考えたことをまとまりやつながり考えて整理させるようにする。 ・国語辞典の利活用で語彙力を高めるようにすることも考えておきたい。
算数	○立式までの段階において、図や言葉を使って説明を書くことや発表する経験を積ませてきている成果として、自分なりの考えを持つことができるようになってきている。 ●個人差がかなり大きく、記述式の問題は苦手な傾向がある。 ●学力が低位の児童は下学年での習得状況に難あり。 ●データの活用には弱さが見られる。	・課題に対して、自分なりの考えを持たせることを大事にする。 具体的な絵 ⇒ 抽象化した図 ⇒ ことば ⇒ 式 ・能動的に学習を進められるよう授業を工夫する。 ・書く活動や説明をする活動の充実を図る。 ・見える化する。(教材・教具の工夫で視覚から情報を入れる) ・基礎的な事項の繰り返し活動を入れて定着を図る。
理科	○実験・観察の結果を基にして、自分なりの考えをもつことができるようになってきている。 ●問題解決のための記録として適切なものを選ぶ問題の正答率が低い。 ●記述式の活動に弱さが見られる。 ●実験・観察において適切な条件をあてはめたり、よりよい方法を考えたりすることが得意ではない。	・実験・観察などの操作活動の意味を常に考えさせながら取り組ませるようにする。 *実験の目的と整えるべき条件を明確にするとともに、なぜそうするのかを考えさせることを大事にする。 ・各学年で大事にすべき「見方(事象の捉え)・考え方」を子どもたちが常に意識できる指導と常時の掲示を工夫する。

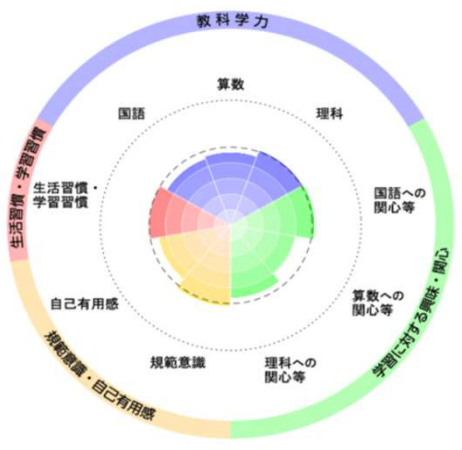
(2)児童質問紙調査から見られた傾向

	成果と課題(○: 成果, ●: 課題)	対 策(・)
質問紙	○地域行事への参加率が高く、地域のひとやもの、ことを学ぶ上でプラスになっている。 ●めざすことをイメージすることや頑張ることの大切さについて理解しているが、その実現に必要な方法を考えること、継続的に行動することが不足している傾向が見られる。 ●メディアに触れる時間が多く、読書の時間が少なくなっているとともに、身の回りの事象についての関心が低くなっている。	・頑張りに伴う自己の伸びが見えるスモールステップの活動を取り入れることで、目標に確実に近づいている実感をもてるようにし、活動意欲を高め、学習が楽しいと思えるようにしていく。 ・読書を含めて、幅広く様々な情報に触れる場をできるだけ多く取り入れるようにする。

(3)児童質問紙調査の結果より(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています。)



(4)学力・学習状況調査結果チャート(破線は全国平均)



(5)その他、今後特に力を入れて取り組むこと

- ◇課題に取り組む際に、既習事項とつなげて考えたことをもとに話し合う場を大切にする。
- ◇様々なジャンルや形態の本に出会わせる場をもつようにするとともに、文字だけの本への移行を大切にする。
- ◇家庭との連携により、家庭学習の時間のみでなく、質的な向上をめざすようにする。
- ◇仲間とのかかわりの中で、自ら問題を見つけ、その解決のために必要なことを考えて能動的に学ぶ児童を育てていく。
- ◇「できた」「伸びた」「発見した」「解決した」喜びを味わわせることを大切にして、学習が楽しいと感じられるようにしていく。

【受検者数】

53 名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示。